様式2　　令和6年4月1日

令和6年度　評価計画及び自己評価

（計画・中間・最終）　　広南中学校区　校番　2　　呉市立広南小学校

a　学校教育目標	<広南学園> 未来を創る 「誇りを持って故里を語り，受け継ぎ，発展を担う志と力を育てる教育の創造」	b　経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 （学校の使命）	夢と志を持ち， 社会に貢献する人材を育成する
			〈ビジョン〉 （将来の学校像）	○深い学びの精神と感謝の気持ち，社会貢献への気概をもつ児童生徒を育て，地域から信頼される学校を目指す。 ○地域文化の拠点として地域の活性化に貢献する学校を目指す。

c　中期経営目標を踏まえた現状（進捗状況）と今年度の重点	「未来を創る　～Society5.0を生きる資質・能力の育成～」 ①主体的に考え，議論し，自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して,主体的・対話的で深い学びを実現する。 ②学力向上のため，基礎・基本の学力及び活用力の定着，及び予習から生まれる問いづくや振り返りを継続する。 ③「Society5.0を生きる」7つの資質・能力を育むための教育活動の充実 ④自己肯定感を高めるための学級集団づくりと道徳教育の推進 ⑤健やかでたくましく生きるための健康な体力と生活リズムつくり（特に，「メディア・コントロール」「早寝」） ⑥安心・安全な生活のための安全教育の充実及び防災教育の推進 ⑦業務改善の推進
育成を目指す資質・能力	挑戦・探究　責任・使命　感謝・貢献　協力・協働　知識・技能　情報収集・判断　思考・表現

評価計画（中期経営目標を設定してから　1　・　2　・　3　年目）						自己評価					
						９　月			１　月		
重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（今年度）経営目標	f　目標達成のための方策（こんなことをして達成します）	g　指標（効果を見とる目安）	h 目標値	i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
★★★	貫 9年間を通して，確かな学力を育成する	貫 子供の問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善 「主体的・対話的で深い学び」を充実させるための授業改善	・予習の目的として，課題解決学習だけではなく，「学び合い・教え合いの時間を増やすこと」「練習問題や活用問題の時間をしっかり確保すること」を意識した授業改善を行う。 ・主体的に考え，議論し，自己の生き方を考える道徳科の授業づくりにおいて，自分の考えを深めるための話し合いのポイントを発達段階ごとに明確にする。 ・活用問題を意識した授業づくりを行ったり，類似問題）に取り組んだりする。（情報活用能力の育成）	・算数科において，予習から課題意識をもつことができた児童の割合 ・算数科において，予習から課題意識をもつことができた児童の割合（教師の見取り） ・「道徳科の授業で，自分の考えを深めたり，広げたりしている」の肯定的評価の割合 ・算数の活用問題の正答率60%以上の児童の割合（単元ごと）	90 80 90 80						
★★	貫 礼節と挑戦心を身に付け，健やかでたくましい心と体を育成する	基本的生活習慣の定着 体力の向上	・行動を褒める際に価値付けを行ったり，各学級で目標を立てて工夫した取組を行ったりする。 ・「早寝」と「メディアコントロール」に課題があることを周知し　必要に応じて個別相談・指導を行う。。 ・体力テストの重点種目を計画的に実施し，結果を分析して授業改善を図ることで，運動能力の向上を図る。 ・保護者にも周知して，定期的に家庭学習としても取り入れるようにして運動能力の向上を図る。 ・「くれチャレンジマッチ」の取組を活用した体づくり運動により体力の向上を図る。	・「5つの合言葉」の項目のA評定以上達成の児童の割合 ・「生活リズムカード」の項目の目標達成した児童の割合 ・「体力テスト」の重点3種目（50m走，20mシャトルラン，長座体前屈）の記録が全国又は県平均を上回る児童の割合 ・くれチャレンジマッチで5位以内の学年の割合	90 85 75 100						
★	貫 自己有用感を高め，活力を生み出す学校をつくる	異学年交流や地域との交流活動を通した資質・能力の育成 貫 児童の「自分の命は自分で守る」力の育成	・異学年交流や地域との活動内容を吟味し，身に付けさせたい資質・能力を育む。 ・活動前と後の「目指す姿」と「振り返り」を充実させる。 ・「7.9広南防災の日」「呉市学校防災週間」，避難訓練について，家庭・地域や中学校と連携して実施する。	・ふるさと「ひろみなみ」への感謝の気持ちに関するアンケート（児童用）の肯定的評価の割合 ・「将来の夢や目標をもっている」の肯定的評価の割合 ・「生活と学習」アンケート（児童用）【防災】の肯定的評価の割合 ・家庭を巻き込んだ防災教育を行ったとする学級の割合	90 90 95 100						
業務改善	貫 働き方改革を推進する	貫 長時間勤務の縮減に向けた業務改善	・入校時に退校時刻を申告し，タイムマネジメント力を向上させる。 ・見通しをもった時間の使い方ができるよう，声をかけをしたり、サポートしたりする。 ・退校30分前に教室を閉め，全職員退校時刻（月・火・木・金曜日18時30分，水曜日17時30分）を徹底する。	・児童と向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合 ・時間外在校等時間が月45時間以内の教職員の割合	90 100						

【k：評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60